

稚内高校

令和 8 年度シラバス

衛生看護科 1 年

目次

1. 現代の国語	6. 英語コミュニケーションⅠ	1 1. 書道Ⅰ
2. 言語文化	7. 体育	1 2. 基礎看護学（概論）
3. 地理総合	8. 保健	1 3. 基礎看護学（技術）
4. 数学Ⅰ	9. 音楽Ⅰ	1 4. 人体の構造と機能
5. 科学と人間生活	1 0. 美術Ⅰ	1 5. 老年看護
		1 6. 稚内学

教科	国語	科目	現代の国語	年次	1	単位数	2	必修
使用教科書	現代の国語（大修館）							
使用副教材	漢字とことば 常用漢字アルファ 五訂版（桐原書店） 評論速読トレーニング700（数研出版）							
科目の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。							
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度	
評価の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。			「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。			言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。	
評価の算出	上記の趣旨をふまえ、授業内を行う定期考査や課題確認テストを基に評価を算出する。			上記の趣旨をふまえ、定期考査やレポート、発表を基に評価を算出する。			上記の趣旨をふまえ、レポートや発表、ミニテストを基に評価を算出する。	
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容	①	②	③		
前期	4	8	オリエンテーション／伝える・伝え合う／「水の東西」	○	◎	○	小テスト レポート	
	5	6	「『動』への変化」	◎	◎	○	レポート	
	6	7	「インターネット時代の音楽産業」	◎	◎	○	レポート	
	4		的確に伝える	○	◎	○		
	7	7	意見を示す／「自然と人間の関係をとおして考える」	○	◎	◎	レポート	
	8	3	魅力的に伝える 前期期末考査	○	◎	◎	発表 定期考査	
9	5	「空気を読む」	○	◎	◎	レポート		
後期	10	5	「『個人』から『分人』へ」	◎	◎	○	レポート	
	11	8	「言葉についての新しい認識」	○	◎	◎	レポート	
	12	7	「白」	○	◎	○	レポート	
	1							
	2	4	主張を吟味する 後期期末考査	○	◎	○	発表 定期考査	
	3	3	考えを発信する・結論を出すために話し合う 考えを発信する・レポートを書く	○	◎	◎		
合計	70							
学 習 方 法 ・ そ の 他								
○書けない・読めない・わからない漢字や語句を見つけたら、必ず調べましょう。漢字や語句の知識は、文章を話す・書く・読むにあたって重要な力です。 ○基本的に、どの単元においても「自分の考え」などの文章を作成し、それを他者に伝える活動を行います。ここで培う力は、社会で生きるものとなります。 ○定期的に漢字や語句の小テストを実施します。日進月歩です。								

教科 科		国語	科目	言語文化	年次	1	単位数	2	必修	
使用教科書		言語文化(大修館)								
使用副教材		読んで見て覚える重要古文単語315 三訂版(桐原書店) 基礎から学ぶ解析古典文法 三訂版 ・ 演習ノート(桐原書店) 基礎から解釈へ 漢文必携 五訂版・チェックノート(桐原書店)								
科目の目標		国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
評価の算出		上記の趣旨を踏まえ、授業内における小テストや定期考査、休業明け課題確認テストを基に評価を算出する。			上記の趣旨を踏まえ、定期考査を基に評価を算出する。			上記の趣旨を踏まえ、レポートや発表を基に評価を算出する。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前期	4	1 6	・オリエンテーション ・「世界を見わたす窓」				○	○	◎	授業での様子
	5	5	・古文入門 宇治拾遺物語「児のそら寝」				◎	○	○	小テスト
	6	8	・「羅生門」				○	◎	○	小テスト、提出物
	7	8	・「実体の美と状況の美」				○	◎	○	小テスト、提出物
	8 9	前期期末考査 8								定期考査
後期	10	8	・「青が消える(Losing Blue)」 ・「外国語の不思議・日本語の不思議」				○	◎	○	小テスト、提出物
	11	3	・漢文入門				◎	○	○	小テスト、提出物
		5	・漢文「故事」				◎	○	◎	小テスト、提出物
	12	6	「セメント樽の中の手紙」				○	◎	◎	小テスト、提出物
	1	4	・短歌・俳句				○	○	◎	小テスト、提出物
	2	4	後期期末考査							定期考査
	3	4	・1年間の復習							
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
【現代文】 ・読めない漢字や意味のわからない語句を見つけたら、調べましょう。語彙力が向上します。電子辞書を持っている人は、必ず持参すること。 ・自分の考えを書き、交流する活動を行います。思考力や表現力が向上するので、真剣に取り組みましょう。 【古典(古文・漢文)】 ・教材に入る前は、ノートに本文を記入したり語句の意味を調べるなど、必ず予習しましょう。(やり方などは授業で説明します) ・古文ができるようになる基本は「単語力」です。【読んで見て覚える重要古文単語315】を3年間使用し、テストも行うので、しっかり覚えましょう。 【その他】 ・定期的に古文単語や漢字テストを実施します。3年後には確実に定着させられるように、今からコツコツと取り組みましょう。 ・授業は、自分の考えや意見を表現する練習の場としてください。必ず、将来の進学や就職などで生きてきます。										

教科	科	地理歴史	科目	地理総合	学年	1	単位数	2	必修	
使用教科書	地理総合（東京書籍） 新詳高等地図（帝国書院）									
使用副教材	地理総合ワークシート（東京書籍）									
科目の目標	現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、社会的事象の地理的な見方・考え方を培い、グローバル化する国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。									
評価の観点	① 知識・技能				② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	地図や地理情報システムなどを用い、調査や諸資料から地域的・地球的課題への取り組みを理解することができるか。				地理に関わる事象の意味や背景を位置や分布・自然環境に着目し、多角的・多面的に考察し課題解決に向けて構想したり説明できるか。			地理に関わる諸事象についてよりよい社会の実現ができるよう課題を主体的に追求・解決しようとする態度を養い、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さを深めることができたか。		
評価の算出	・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。				・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。			・提出物 ・復習テスト 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。		
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前期	4	1	オリエンテーション							
		5	第1編1章 私たちが暮らす世界				◎	◎	○	
	5	6	第1編2章 地図や地理情報システムの役割				◎	◎	○	
	6	7	第1編3章 資料から読み取る現代社会				◎	◎	○	
	1		前期中間考査							
	7	4	第2編1章1節 生活文化の多様性と国際理解				◎	○	○	
後期	8	4	第2編1章2節 生活文化と自然環境①				◎	○	○	
	9	7	第2編1章3節 生活文化と自然環境② 4節 生活文化と産業				◎	○	○	
	1		前期期末考査							
後期	10	8	第2編1章4節 生活文化と産業 GLOBAL REPORT				◎	○	○	
	11	7	第2編2章1節 地球環境問題 2節 資源・エネルギー問題				◎	◎	○	
			3節 人口問題 4節 食料問題				◎	◎	○	
	1		後期中間考査							
	12	6	5節 居住・都市問題 6節 民族問題				◎	◎	○	
			7節 持続可能な社会の実現をめざして GLOBAL REPORT				◎	◎	○	
	1	4	第3編1章1節 日本の自然環境の特徴				◎	◎	○	
	2	3	第3編2節 さまざまな自然災害と防災				◎	◎	○	
合計	70									
学 習 方 法 ・ そ の 他										
【授業】 *準備するもの：教科書・タブレット・地図帳・ファイル・色ペン（2色以上）を必ず持参してください。 *「教科書読み」「問題の出し合い」などペアワークを多く取り入れます。 *必要に応じてメモをしたり、教科書にマーカーを引いたりしてください。 *図表やグラフがたくさん出てきます。何を表している図表・グラフなのかしっかりと確認するようにしてください。 【定期考査】 *定期考査の成績不振（赤点）は30点未満を指し、30点以上であれば、成績不振の対象外となります。 *考査内容は、教科書を同じ内容の写真や図表・グラフを中心に出题します。授業のメモ、書き込みが重要になってきます。										

教 科		数 学		科目	数学Ⅰ（看護科）	年 次	1	単 位 数	3	必修		
使用教科書		よくわかる 新編数学Ⅰ（第一学習社）										
使用副教材		新版 スタディ数学A（第一学習社） 改訂版 Step By Step！ 新 高校の数学（数研出版）										
科目の目標		授業を通して知識や数学的な考え方を身につけ、問題演習を通して定着し、自分で問題を解くことができる。										
評価の観点		① 知識・技能				② 思考・判断・表現				③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		自分の考えを文章や数式に表すことができる。説明された内容を理解し、それを活用して問題が解くことができる。				問題文から立式したり、図や数式を用いて考察することができる。				授業に積極的に参加し、自分で問題を解くことができる。		
評価の算出		上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。				上記の評価の趣旨を踏まえ、定期考査をもとに評価の算出を行う。				上記の評価の趣旨を踏まえ、提出課題をもとに評価の算出を行う。		
年 間 の 学 習 計 画									評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容						①	②		③
前 期	4	9	中学校の数学の復習	数の四則計算					◎	○	◎	取り組み
				文字の計算					◎	○	◎	取り組み
	5	9	第1章 数と式	整式／整式の加法・減法／整式の乗法					◎	○	◎	取り組み
				乗法公式の利用／因数分解					◎	○	◎	取り組み
	6	12		展開・因数分解の工夫／実数					◎	○	◎	取り組み
				根号を含む式の計算／不等式／不等式の性質					○	◎	◎	取り組み
				前期中間考査					◎	◎	◎	定期考査、提出物
	7	6		1次不等式の解法／連立不等式の解法					◎	○	◎	取り組み
				絶対値を含む方程式・不等式					○	◎	◎	取り組み
	8	6	第2章 2次関数									
後 期				関数／2次関数のグラフ					○	○	◎	取り組み
				2次関数の最大・最小					○	○	◎	取り組み
	9	12	前期期末考査						◎	◎	◎	定期考査、提出物
				2次関数の決定					○	○	◎	取り組み
	10	12		2次方程式の解					◎	◎	◎	取り組み
				2次方程式の実数解の個数					◎	○	◎	取り組み
	11	12		2次関数のグラフとx軸の共有点					◎	○	◎	取り組み
				2次不等式					○	◎	◎	取り組み
	12	9	後期中間考査						◎	◎	◎	定期考査、提出物
				第4章 集合と論理								
期	1	6		集合					◎	○	◎	取り組み
				命題／証明法					○	◎	◎	取り組み
	2	6		中学校の図形の復習					◎	○	◎	取り組み
				後期期末考査					◎	◎	◎	定期考査、提出物
	3	6		中学校の図形の復習					◎	○	◎	取り組み
合計		105										
学 習 方 法 ・ そ の 他												
○授業の受け方 授業を聞いてわからない所を明確にしましょう。 授業を聞いて理解ができれば問題集にも取り組んでみましょう。 ○提出物について 提出物を課されたら、自分の力で取り組んでみましょう。評価にも入るため期限を守りましょう。 わからないところは質問したり解答・解説を読んだりしてもう一度取り組みましょう。 ○定期考査 定期考査は普段の勉強が重要です。日頃から問題集にこつこつ取り組みましょう。												

教 科		理科	科目	科学と人間生活	年次	1	単位数	2	必修			
使用教科書		高等学校 改訂 科学と人間生活（第一学習社）										
使用副教材		改訂 ネオバルノート科学と人間生活（第一学習社）										
科目の目標		自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付ける。										
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度				
評価の趣旨		自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。			観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究し、表現している。			自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度をみせている。				
評価の算出		定期考査・小テスト・提出課題・授業参加			定期考査・小テスト・提出課題・授業参加			小テスト・提出課題・授業参加				
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法			
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③		
前 期	4	1	●オリエンテーション				○	○	○	授業参加・提出課題		
		5	●科学技術の発展				○	○	○			
		5	6	●材料とその再利用 [実験・観察] プラスチックの燃焼				○	○		○	授業参加・提出課題
	6	1	《前期中間考査》				◎	◎		定期考査		
		7	●衣料と食品 [実験・観察] 繊維の合成				○	○	○	授業参加・提出課題		
		7	4	●ヒトの生命現象 [実験・観察] DNAモデルの製作				○	○	○	授業参加・提出課題	
		8	4	●ヒトの生命現象				○	○	○	授業参加・提出課題	
			9	1	《前期期末考査》				◎	◎		定期考査
			7	●微生物とその利用 [実験・観察] 微生物の観察				○	○	○	授業参加・提出課題	
後 期	10	8	●熱の性質とその利用 [実験・観察] 比熱の実験				○	○	○	授業参加・提出課題		
		11	7	●光の性質とその利用 [実験・観察] 屈折・全反射の実験				○	○	○	授業参加・提出課題	
			1	《後期中間考査》				◎	◎		定期考査	
	12	6	●自然景観と自然災害 [演習] DO HUG(避難所運営ゲーム)				○	○	○	授業参加・提出課題		
		1	4	●太陽と地球				○	○	○	授業参加・提出課題	
	2		3	●これからの科学と人間生活				○	◎	◎	授業参加・提出課題	
			1	《後期期末考査》				◎	◎		定期考査	
	3	4	●これからの科学と人間生活				○	◎	◎	授業参加・提出課題		
		合計	70									
学 習 方 法 ・ そ の 他												
◎授業の受け方 ・毎回必ず教科書、ノート、副教材、タブレット端末を用意しましょう。 板書した内容を理解しながら、ノート(プリント)に書き写すようにしてください。 ・基本的な計算に不安を感じている人は、小学校～中学校までに習った計算を復習してください。また、これから数学で習う計算もしっかりと取り組みましょう。 ・わからない箇所はわからないままにせず、授業後すぐに質問しましょう。 ◎家庭学習の仕方 ―予習― ・教科書に目を通し、次に学習する内容が日常生活や身の回りでおこる現象に関連しているかどうかを考えてみてください。 ―復習― ・授業で学習した内容を思い出しながら、教科書とノートを見返して重要な点を自分なりに整理しましょう。 知識の整理ができれば、副教材で問題演習をし、理解できているかを確認しましょう。 わたしたちは様々な科学技術をの恩恵を受けながら生活しています。その原理に思いを馳せていきましょう。												

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅠ	年次	1	単位数	3	必修	
使用教科書	FLEX① ENGLISH COMMUNICATION								
使用副教材	FLEX① ENGLISH COMMUNICATION SECOUND EDITION 予習&授業ノート								
科目の目標	Can-Doリストに基づく。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	・外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めようとしている。 ・実際に英語を用いた言語活動を通して、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身につけようとしている。			・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成しようとしている。 ・言語の使用場面や言語の働きの中からふさわしいものを取り上げ、有機的に組み合わせて活用しようとしている。			・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。		
評価の算出	・定期考査 ・小テスト			・定期考査 ・パフォーマンステスト ・課題			・パフォーマンステスト ・課題 ・振り返り		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	1	オリエンテーション						課題、取り組み、振り返り
		1	Reading Skill			○	◎	◎	
		6	Lesson 1			○	◎	◎	
		5	2	Lesson 2			○	◎	
	6	2	パフォーマンステスト			◎	◎	◎	
		2	Lesson 2			○	◎	◎	
		2	パフォーマンステスト				◎	◎	
		6	Lesson 3			○	◎	◎	
	7	3	Lesson 4			○	◎	◎	
		8	前期期末考査			◎	◎		
後 期	10	2	パフォーマンステスト			◎	◎	◎	
		8	Lesson 5			○	◎	◎	
		9	Lesson 6			○	◎	◎	
		2	パフォーマンステスト			◎	◎	◎	
	11	9	Lesson 7			○	◎	◎	
		3	パフォーマンステスト			◎	◎	◎	
		12	Lesson 8			○	◎	◎	
		1	Lesson 9			○	◎	◎	
	2	3	パフォーマンステスト				◎	◎	
		2	後期期末考査			◎	◎		
3		Lesson 10			○	◎	◎		
合計		105							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
・教科書、2穴ノート（A4版）、タブレットを毎時間準備してください。 ・先生の話聞きメモを取ったりするだけでなく、生徒同士で意見を交わしたりする場面が多くあります。 ・英語技能の中の5つの領域（R：読むこと、L：聴くこと、W：書くこと、SI：対話や会話、SP：発表）を総合的に伸ばすことを目指します。 積極的に英語を使う場面を楽しみながら学習しましょう。									

教 科	保健体育	科目	体育	学年	1	単位数	3	必修	
使用教科書	なし								
使用副教材	なし								
科目の目標	運動の合理的・計画的な実践を通して知識を深めるとともに技能を高め、楽しさを深く味わうことができるようにする。 自己の体力向上及び健康の保持増進を図り、公正、協力、責任、参画、安全などに対する意欲を高める。 生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	運動の考え方や技の名称、行い方、体力の高め方、課題解決の方法などを理解できているか。 運動の特性や魅力に応じた楽しさを味わい、技能や動きなどを高めることができたか。			グループやチーム、自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できているか。また、取り組みから得た知識・技能をまとめることができているか。			運動に主体的に取り組み、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしているか。		
評価の算出	A：技能、知識共に達成度が高い。 B：概ね達成することができた。 C：技能、知識共に達成度が低い。			A：話し合い活動や発表の様子が積極的である。資料の完成度が高い。 B：概ね、達成する事ができた。 C：話し合い活動の様子や発表、資料の完成度の水準が低い。			A：積極的に活動に参加し、役割以上に取り組むことができた。 B：活動に参加し、自己の役割を果たすことができた。 C：活動への参加が消極的であり、他人任せである。		
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	1	オリエンテーション【1】					○	小テスト 観察・新体力テスト換算表 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察・長距離走換算表 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 小テスト 小テスト 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート
		2	体育理論【2】：オリエンテーション・①スポーツの始まりと変遷			○	○	○	
		5	集団行動・新体力テスト【8】			○	○	○	
		6	体づくり運動：体ほぐし運動・縄跳び【6】			○	○	○	
		6	陸上競技：長距離走【5】			○	○	○	
		12	球技Ⅰ 男子：ソフトボール 女子：バスケットボール【12】			○	○	○	
		8	球技Ⅰ 男子：バスケットボール 女子：ソフトボール【12】			○	○	○	
		9	体育理論【2】：②文化としてのスポーツ			○	○	○	
		5	③オリンピックとパラリンピックの意義			○	○	○	
後 期	10 11 3	5	男子：柔道 女子：ダンス【5】			○	○	○	観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 観察・スキルテスト・ワークシート・レポート 小テスト 小テスト 小テスト
		11	カーリング【11】			○	○	○	
		3	救命講習会【3】			○		○	
		10	器械運動：マット運動【10】			○	○	○	
		12・1	球技Ⅱ 男子：卓球 女子：バドミントン【10】			○	○	○	
		2・3	球技Ⅱ 男子：バドミントン 女子：卓球【10】			○	○	○	
		3	体育理論【3】④スポーツが経済に及ぼす効果			○	○	○	
			⑤スポーツの高潔さとドーピング			○	○	○	
			⑥スポーツと環境			○	○	○	
合計	105								
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方 ・指定ジャージ上下、ハーフパンツ、指定Tシャツは毎回準備して下さい。屋外で実施する場合は指定運動靴を使用して下さい。 ※屋外用指定運動靴には、使用前までに『名前』を必ず記入するようにお願いします。 ※屋外用指定運動靴は、指定のシューズケースに入れ、靴箱にしまうこと。 ・体育館やグラウンドへの移動を早めに済ませ、始業チャイムまでに整列して待機して下さい。 ・「わかった、できた」を目指した授業を展開します。運動技能の得意・不得意に関わらず意欲を持って臨んで下さい。 ◎提出物について ・『授業課題』をタブレットを活用して配布します。課題の指示を確認し、提出期限を守ることを大切にして下さい。 ・「思考・判断・表現」の評価対象になります。 ◎定期考査について ・実施しません。その代わりに授業内で運動技能テスト（スキルテスト）及び運動への理解度テスト（ペーパーテスト）を実施します。 ◎カーリングについて ・わからないみどりスポーツパークで2回実施します。詳しくはガイダンスを実施します。 ◎体育理論の実施時期は、単元の進行状況によって変更する場合があります。									

教 科		保健体育		科目	保健		学年	1		単位数	1		必修	
使用教科書		現代高等保健体育（大修館書店）												
使用副教材		現代高等保健体育ノート（大修館書店）												
科目の目標		保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。												
評価の観点		① 知識・技能					② 思考・判断・表現					③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		個人及び社会生活における健康・安全についての知識を身に付け、その役割について理解できているか。					健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、筋道を立てて他者に表現できているか。					自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもち、実生活と結びつけて総合的に捉えようとする態度が身についているか。		
評価の算出		・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。					・定期考査 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。					・授業参加状況 ・提出物の内容 達成度をA・B・Cの3段階で評価する。		
年 間 の 学 習 計 画											評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容								①	②	③	
前 期	4	3	オリエンテーション(1) 健康の考え方と成り立ち(1) 私たちの健康のすがた(1)								○	○	○	・観察による評価
	5	3	生活習慣病の予防と回復(1) がんの原因と予防(1) がんの治療と回復(1)								○	○	○	・観察による評価
	6	4	運動と健康(2)		食事と健康(1)		休養・睡眠と健康(1)				○	○	○	・観察による評価
	7	2	喫煙と健康(1)		飲酒と健康(1)						○	○	○	・観察による評価
	8	2	薬物乱用と健康(1)		精神疾患の特徴(1)						○	○	○	・観察による評価
	9	4	精神疾患の予防(1) 前期期末考査・返却(2) 普通救命講習(1)								○	○	○	・定期考査 ・ノート提出
後 期	10	4	精神疾患からの回復(1) 現代の感染症(2) 感染症の予防(1)								○	○	○	・観察による評価
	11	4	性感染症・エイズとその予防(2) 健康に関する意思決定・行動選択(1) 健康に関する環境づくり(1)								○	○	○	・観察による評価
	12	3	事故の現状と発生要因(1) 安全な社会の形成(1) 交通における安全(1)								○	○	○	・観察による評価
	1	2	応急手当の意義とその基本(1) 日常的な応急手当(1)								○	○	○	・観察による評価
	2	3	心肺蘇生法(1)		後期期末考査・返却(2)						○	○	○	・定期考査 ・ノート提出
	3	1	高等学校保健についてのまとめ(1)								○	○	○	・観察による評価
合計		35												
学 習 方 法 ・ そ の 他														
◎授業の受け方 ・教科書/ノート/タブレットを用意してください。 ・基本的知識を理解して課題解決するために、積極的に発言したり、グループ活動に参加することが大切です。 ・形態は一斉、グループ学習、ペアワーク、実験など様々です。ねらいを理解して取り組みましょう。 ◎定期考査について ・前期期末考査と後期期末考査で実施します。出題範囲が広がりますので計画的に家庭学習に取り組んで下さい。 ◎ノート提出について ・各期考査に合わせて、学習ノートの提出があります。コツコツ取り組みましょう。 ◎救命救急法実習について ・校内消防署の救急救命士のご指導のもと、心肺蘇生法とAEDの使い方を学びます。														

教科	科目	音楽Ⅰ	年次	1	単位数	2	選択	
使用教科書	MOUSA1（教育芸術社）							
使用副教材	なし							
科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、社会や生活の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる異質・能力を次の通り育成することを目指す。 ①曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 ②自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 ③主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、完成を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。							
評価の観点	① 知識・技能		② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱・器楽・創作などで表している。		音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことこのかかわりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。		音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			
評価の算出	授業中の様子や提出記録物の内容、実技、小テストの実施に加え、単元ごとに設定される目標をどれだけ達成しようとしているかという観点で評価を付けます。							
年 間 の 学 習 計 画					評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容		①	②		③
前 期	4	1	オリエンテーション					授業での取り組みの様子、実技テストでの演奏、鑑賞の際の記入シートや小テストなどから成績を付けます。
		6	【歌唱】校歌、日本歌曲		◎	○	○	
	5	5	【楽典】音名・音符・拍子・強弱		◎	○	○	
	6	3	【鑑賞】音とイメージ		○	◎	○	
	7	4	【歌唱・鑑賞】英語の歌		◎	○	○	
	8	4	【歌唱】イタリア歌曲		◎	○	○	
	9	3	【歌唱】ドイツ歌曲		◎	○	○	
後 期	10	4	【音楽史】作曲家		○	◎	○	
	11	3	【鑑賞】オーケストラ		○	◎	○	
		3	【歌唱】季節の歌					
	12	3	【器楽】トーンチャイム		◎	○	○	
		10	【器楽】アルトリコーダー		◎	○	○	
	1	8	【歌唱】合唱		◎	○	○	
	2	3	【鑑賞】映画・ゲーム音楽		○	◎	○	
	10	【創作】音素材		○	◎	○		
	3							
合計		70						
学 習 方 法 ・ そ の 他								
①授業でアルトリコーダーを使用する単元があります。中学校時に使用したもので構いませんので、手元にあるかを確認してください。ない場合は別途購入してもらいます。 ②音楽が得意でも苦手でも、真剣に取り組む姿勢が大切です。一生懸命に取り組んでください。								

教科 科		芸術 科目	美術Ⅰ	年次	1	単位数	2	選択		
使用教科書		美術1（光村図書出版）								
使用副教材		絵の具セット、スケッチブック等								
科目の目標		美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現		③ 主体的に学習に取り組む態度			
評価の趣旨		対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。			造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。		主体的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいるかどうか。また、美術を愛好する心情・感性、美術文化への親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度が養われているかなど。			
評価の算出		授業中の様子、各種提出物、完成作品より、まず単元毎に設定された目標をどの程度達成しているかで観点別評価（A～C）をつけます。その後、観点別評価を元に前期・後期毎に評価（1～5）をつけ、年度末に最終的な科目としての前後期統合した評定（1～5）を算出します。								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③	
前 期	4	1	オリエンテーション 1年間の学習や購入した画材について説明します。					○	各単元毎に目標が描かれた授業計画表を提示します。原則、その目標を評価の観点毎にどの程度達成できたかでA～Cをつけていきます。 【知識・技能】 主に提出された作品、練習課題から評価します。 【思考・判断・表現】 主に提出された作品、鑑賞文の他、制作途中のアイディアスケッチや振り返り・自己評価に書かれたことも参考に評価します。 【主体的に学習に取り組む態度】 主に普段の授業中の様子や、宿題・その他提出物の取り組み具合から評価します。提出物の締め切りを守れているかどうかここに含まれます。	
	5	5	レタリング スケッチブックに貼る名前のレタリングを行います（GWに宿題有り）			○	○	○		
	5 6	4	人物クロッキー クロッキーを通して、観察力や対象を単純な線に置き換える能力を養います。			○	○	○		
	6	4	色の学習 色についての基礎知識を学び、狙った色の再現などを通して混色の原理などを学びます。			○	○	○		
	6 8	12	ポスターデザイン 各種コンクールに出品するポスターをレタリングや色の知識を用いてアクリル絵の具で描いていきます。			○	○	○		
	8 9	12	シルクスクリーン シルクスクリーンの原理や目的に沿ったデザインの考え方を制作をとおして学びます。			○	○	○		
	後 期	10 11	14	模刻 レプリカ制作を通し、造形や色彩の基礎を学びます。			○	○		○
		12 3	18	デッサン基礎 構図の取り方、明暗での立体感の表し方など、デッサンをするうえでの基礎を学びます。			○	○		○
		合計		70						
学 習 方 法 ・ そ の 他										
○学習方法 1つの課題は概ね10～14時間かけて制作します。その中に構想する時間が含まれます。計画的に制作しましょう。 作品はすべて提出してもらいます。欠席した際の補習は放課後に行います(自己申告制)。作品は単元の最終日までには必ず提出してください。 チャイムと同時に授業を始めます。机・イス、道具の準備は休み時間に済ませましょう。 ○その他 入学後、授業で使用する画材を指定店（北海ビジネス）で購入してもらいます。費用は8,000円程度かかります。 購入した画材は2年生以降でも選択教科によっては使用します。大切に使用しましょう。 配布したプリントを保管するクリアファイルは各自で用意をして下さい。										

教 科		芸術	科目	書道Ⅰ	年次	1	単位数	2	選択	
使用教科書		書Ⅰ（光村図書）								
使用副教材		なし								
科目の目標		書道の幅広い活動を通して、書に対する見方・考え方を働かせ、生活や社会の文字や書、書の伝統と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身につけている。			書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。			感性を高め、書の伝統と文化と豊かに関わり、書の幅広い活動に主体的に取り組もうとしている。		
評価の算出		授業中の様子、各種提出物、完成作品より、まず単元毎に設定された目標をどの程度達成しているかで観点別評価（A～C）をつけます。その後、観点別評価を元に前期・後期毎に評価（1～5）をつけ、年度末に最終的な科目としての前後期統合した評定（1～5）を算出します。								
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②		③
前 期	4	6	○書写から書道へ…姿勢と執筆法、用具・用材などについての学習				◎	○	◎	各単元毎に目標を提示します。原則、その目標を評価の観点毎にどの程度達成できたかでA～Cをつけていきます。 【知識・技能】 主に提出された作品により評価します。 【思考・判断・表現】 主に提出された作品、鑑賞文・振り返り・自己評価により評価します。 【主体的に学習に取り組む態度】 主に普段の授業中の様子や、その他提出物の取り組み具合から評価します。提出物の締め切りを守れているかどうかここに含まれます。
	5	6	○漢字の書…楷書の古典（孔子廟堂碑・九成宮醴泉銘） 全道学校書道展出品				◎	○	○	
	6	8	○漢字の書…楷書の古典（雁塔聖教序・顔氏家廟碑）				○	◎	○	
	7	4	○漢字の書…楷書の古典（牛橛造像記・鄭義下碑）				○	◎	○	
	8	4	○漢字の書…行書の古典（蘭亭序・風信帖） 書の甲子園出品				○	○	◎	
	9	8	○篆刻				◎	○	○	
後 期	10	8	○仮名の書…平仮名の単体・連綿の学習 ○仮名の書…仮名の美、散らし書き（高野切第三種）				◎	○	○	
	11	4	○漢字仮名交じりの書…①楷書と仮名の調和				◎	○	○	
		4	②行書と仮名の調和				○	○	◎	
	12	6	③名筆を生かした表現/紙面構成の工夫 全国学生書道展出品				○	○	◎	
	1	4	○書道鑑賞…文字の変遷や仮名の成立、書美の構成要素について学習				○	○	◎	
	2	4	○漢字仮名交じりの書…名作や詩歌を題材に草稿をもとに制作				○	◎	◎	
	3	4	○書の交流と鑑賞…作品集をつくる				○	○	◎	
合計		70								
学 習 方 法 ・ そ の 他										
【授業での約束事】 ・ 集中して書く時は集中して書く、他人と交流する時は精一杯やる。メリハリをつけて授業に臨みましょう。 ・ 授業開始のチャイムと同時に授業を始めるので、それまでに準備を完了させておくこと。 毛氈、墨池、文鎮、筆、用紙、教科書等、その他必要であればその都度指示を出します。 ・ 提出する全ての作品は年度末の単元で必要となります。提出する前に必ず写真を撮ってください。										

教科	看護	科目	基礎看護学(概論)	年次	1	単位数	1	必修
使用教科書	なし							
使用副教材	(1)系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論(医学書院)							
科目の目標	(1)看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する基礎的な技術を知ることができる。 (2)よりよい看護の実践をめざして自ら学び、日常生活の援助及び、診療に伴う援助における看護の課題発見に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。							
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度	
評価の趣旨	看護の基本となる援助を科学的根拠をもとに身につけることができる。			看護援助について対象者の立場に立った視点を持ち、自分の考えを発することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。看護援助について対象者の立場で考えたり学んだことから今後の工夫などを考えられる。	
評価の算出	定期考査および実技・その他（学習態度・提出物等）							
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容	①	②	③		
前期	4	2	第1章 看護とは	◎	○	○	授業の取り組み、定期考査	
	5	3	看護の変遷、近代の看護看護の定義、 ナイチンゲールの業績と看護、ヴァージニア・ヘンダーソン、グループワーク	◎	○	○	授業の取り組み、定期考査	
	6	3	第2章 看護の対象の理解 ホメオスタシス、ストレス、コーピング、人間の理解	◎ ◎	○ ○	○ ○	授業の取り組み、定期考査 授業の取り組み、定期考査	
			【前期中間考査】					
	7	3	マズローの欲求階段説、生活者としての人間	◎	○	○	授業の取り組み、定期考査	
	8	2	第3章 国民の健康状態と生活 健康の定義、健康に対する指標、受療状況、ライフサイクル	◎	○	○	授業の取り組み、定期考査	
後期	9	4	第5章 看護における倫理 看護倫理（患者の権利とインフォームドコンセント）、意思決定権と守秘義務、看護実践における倫理問題、看護のジレンマ	◎ ◎	○ ○	○ ○	授業の取り組み、定期考査 授業の取り組み、定期考査	
			【前期期末考査】	◎			定期考査	
	10	6	第6章 看護の提供のしくみ サービスとしての看護、看護サービスの提供の場(チーム医療)、看護をめぐる制度と政策	◎	○	○	授業の取り組み、定期考査	
	11	3	第6章 看護の提供のしくみ（10月の続き） サービスとしての看護、看護サービスの提供の場(チーム医療)、看護をめぐる制度と政策	◎	○	○	授業の取り組み、定期考査	
	12	3	看護をめぐる制度と政策	◎	○	○	授業の取り組み、定期考査	
			【前期期末考査】	◎			定期考査	
後期	1	2	第7章 広がる看護の活動の場	◎	○	○	授業の取り組み、定期考査	
	2	2	国際社会と看護、災害と看護	◎	○	○	授業の取り組み、定期考査	
			【後期期末考査】				定期考査	
	3	2	まとめ					
合計	35							
学 習 方 法 ・ そ の 他								
◎授業の受け方 ・教科書とプリントで授業が展開されます。日常生活で看護に関する話題に関心を持ち、生活援助のために必要な基本的な知識・技術を学び、基礎基本にしたがって校内実習を行います。校内実習時は患者と看護師の両方を経験します。患者の立場で援助方法とその理由を考え、基礎基本をもとに状況に応じた援助ができるよう心がけて下さい。校内実習の反省レポートは自分が実際に準備した必要物品や実施方法について振り返り、学んだ点や反省点についてまとめていきます。								

教 科	看護	科目	基礎看護学（技術）	年次	1	単位数	4	必修
使用教科書	基礎看護（文部科学省）							
使用副教材	(1)系統看護学講座 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ(医学書院) (2)系統看護学講座 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) (3)根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護後術(医学書院)							
科目の目標	(1)看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する基礎的な技術を知ることができる。 (2)よりよい看護の実践をめざして自ら学び、日常生活の援助及び、診療に伴う援助における看護の課題発見に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。							
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度	
評価の趣旨	看護の基本となる援助を科学的根拠をもとに身につけることができる。			看護援助について対象者の立場に立った視点を持ち、自分の考えを発することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。	
評価の算出	定期考査、実技・レポート、グループワーク、授業態度など							
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②	③
前 期	4	6	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護技術Ⅰ（基礎看護学②）〔医学書院〕 第1章 コミュニケーション			○	◎	◎
	5	10	系統看護学講座・専門分野Ⅰ・基礎看護技術Ⅱ（基礎看護学③）〔医学書院〕 第1章 環境調整の技術			◎	○	◎
	6	16	※環境調整、ベッドメイキング（実技テスト）、体位変換			◎	◎	◎
	1		前期中間考査			◎	○	
	7	4	第4章 活動休息の技術					
	8	14	※体位変換、車いす、ストレッチャー、臥床患者のシーツ交換			◎	◎	◎
	9	12	※臥床患者のシーツ交換、睡眠と休息			◎	◎	◎
	1		前期期末考査			◎	○	
	後 期	10	12	第5章 苦痛の緩和・安楽確保の技術 ※ポジショニング、褥瘡予防			◎	◎
11		12	第6章 清潔・衣生活援助技術 ※寝衣交換			◎	◎	◎
12		16	※ 手浴、足浴			◎	◎	◎
1			後期中間考査			◎	○	
1		14	※陰部洗浄、オムツ交換			◎	◎	◎
2		12	※電法、全身清拭			◎	◎	◎
1			後期期末考査			◎	○	
3		8	※全身清拭			◎	◎	◎
			※参考資料として「看護がみえるvol.1 基礎看護技術 第2版」を使用					
合計	140							
学 習 方 法 ・ そ の 他								
◎授業の受け方								
・教科書とプリントで授業が展開されます。日常生活で看護に関する話題に関心を持ち、生活援助のために必要な基本的な知識・技術を学び、基礎基本にしたがって 校内実習を行います。校内実習時は患者と看護師の両方を経験します。患者の立場で援助方法とその理由を考え、基礎基本をもとに状況に応じた援助ができるよう心がけて下さい。校内実習の振り返りレポートは自分が実際に準備した必要物品や実施方法について振り返り、学んだ点や反省点についてまとめていきます。								

教 科		看護	科目	人体の構造と機能(解剖生理学)		年次	1		単位数	3		必修			
使用教科書		なし													
使用副教材		(1)系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学(医学書院) (2)書いて覚える解剖生理ワークブック(照林社)													
科目の目標		看護実践に適切に活用するために必要な、人体の構造と機能に関する解剖生理学の基礎的な知識を体系的・系統的に理解し、それらを生活行動や健康と関連づけて考えることができる。解剖生理について自ら学び、健康の保持増進を目指す看護への活用に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。													
評価の観点		① 知識・技能				② 思考・判断・表現				③ 主体的に学習に取り組む態度					
評価の趣旨		人体の構造や機能に関する内容を理解することができる。				基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。				提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。解剖生理を学び看護とのつながりを考えることができる。					
評価の算出		定期考査、提出物・その他（授業態度など）													
年 間 の 学 習 計 画									評価の重点			評価方法			
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容						①	②	③				
前 期	4	7	第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識						◎	○	○	授業の取り組み、定期考査			
	5	12	第2章 栄養の消化と吸収						◎	○	○	授業の取り組み、定期考査			
	6	14	第2章 栄養の消化と吸収						◎	○	○	授業の取り組み、定期考査			
	1		前期中間考査						◎	○		考査			
	7	13	第3章 呼吸と血液のはたらき						◎	○	○	授業の取り組み、定期考査			
	8								◎	○	○	授業の取り組み、定期考査			
	9	12	第3章 呼吸と血液のはたらき						◎	○	○	授業の取り組み、定期考査			
	1		前期期末考査						◎	○		考査			
後 期	10	12	第4章 血液の循環とその調節						◎	○	○	授業の取り組み、定期考査			
	11	8	第4章 血液の循環とその調節						◎	○	○	授業の取り組み、定期考査			
	1		後期中間考査						◎	○		考査			
	12	10	第5章 体液の調節と尿の生成						◎	○	○	授業の取り組み、定期考査			
	1	7	第6章 内臓の機能の調節						◎	○	○	授業の取り組み、定期考査			
	2	4	第7章 体の支持と運動						○	◎	○	授業の取り組み、定期考査			
	1		後期期末考査						◎	○		考査			
	3	2	第7章 体の支持と運動						○	◎	○	授業の取り組み、定期考査			
合計		105													
学 習 方 法 ・ そ の 他															
◎授業の受け方 ・主にプリントを使用した授業が展開されますので、ファイルにきちんと整理をしましょう。教科書は図などを確認するのに使用します。毎時間持参しましょう。 ・学習の中でVTRや模型などを利用します。文字で様々なことを覚えるだけではなく、目で見て覚えること、頭の中に身体の構造(図)をイメージすることが重要です。例)心臓の血液の流れ、腸の走行など ・解剖生理ワークブックは、適宜見開き2ページ程度を小テスト形式で実施します。 ・3「主体性」の評価は授業全体を通して行います。															

教 科	看護	科目	老年看護学	年次	1	単位数	1	必修	
使用教科書	なし								
使用副教材	(1)系統看護学講座・専門分野・老年看護学(医学書院)								
科目の目標	高齢者を生涯発達の視点で捉え、多様な高齢者像を体系的・系統的に理解するとともに、健康寿命を伸展し、地域で自立した生活を支える制度や援助及び健康状況に看護に関する知識を知る。高齢者の特徴と看護について自ら学び、高齢者の健康の保持増進を目指して主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。								
評価の観点	① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨	基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。			生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。		
評価の算出	定期考査および提出物やその他（学習態度・取り組みなど）								
年 間 の 学 習 計 画						評価の重点		評価方法	
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容			①	②		③
前 期	4	2	3章 老年看護のなりたち			◎	○	○	授業の取り組み、定期考査
	5	4							
	6	4	4章 高齢者のヘルスアセスメント			◎	○	○	
	1		前期中間考査			◎			
	7	3	4章 高齢者のヘルスアセスメント						
	8	1	5章 高齢者の生活機能を整える看護（コミュニケーション）			◎	○	○	授業の取り組み、定期考査
	9	3	5章 高齢者の生活機能を整える看護（コミュニケーション）			◎	○	○	授業の取り組み、定期考査
	1		前期期末考査			◎			定期考査
	後 期	10	3	5章 高齢者の生活機能を整える看護（コミュニケーション）			◎	○	○
11		4	6章 健康逸脱からの回復を促す看護（鬱・せん妄・認知症）			◎	○	○	定期考査
1			後期中間考査			◎			
12		2	6章 健康逸脱からの回復を促す看護（鬱・せん妄・認知症）			◎	○	○	授業の取り組み、定期考査
1		2	3章 4章まとめ			◎	○	○	授業の取り組み
2		2	5章 6章まとめ			◎	○	○	授業の取り組み
1			後期期末考査			◎			定期考査
3		1	老年看護学まとめ			◎	◎	○	授業の取り組み
合計		35							
学 習 方 法 ・ そ の 他									
◎授業の受け方 (1) 高齢者の生活と健康について学びます。 (2) 高齢者に発症しやすい疾患と合併症について学びます。 (3) 各疾患、合併症の看護を学びます。 (4) 各領域の疾患で生じる症状、所見等の根拠を知りそれに応じた看護法について学びます。									

教 科		総合	科目	稚内学	学年	1	単位数	1	必修	
使用教科書		なし								
使用副教材		稚内観光マイスター初級テキスト								
科目の目標		稚内市の地理的特徴や発展の歴史、文化的特徴等に関する基礎的内容を学習することにより、郷土に対する理解を深め、郷土に対する愛情と貢献意欲を高めることで、地域の担い手となる人材の育成を図る。								
評価の観点		① 知識・技能			② 思考・判断・表現			③ 主体的に学習に取り組む態度		
評価の趣旨		稚内の歴史、風土、文化、産業に関する幅広い知識を得ることができる。また、地域の諸問題についての確に理解し、それを他者への確に説明することができる。			地域の歴史と現状を知ること、今後の稚内の在り方について積極的に考えることができる。			地域理解の必要性を重視し、積極的に授業に取り組むことができる。		
評価の算出		上記に示した評価の観点を踏まえ、各単元の評価を行います。単元毎の評価の観点は、下記のとおりです。前期定期考査および稚内観光マイスター検定試験の結果など客観的材料はもとより、探究活動に臨む姿勢とレポートの完成度、郷土研究発表会での発表内容等、多面的に評価を行います。								
年 間 の 学 習 計 画							評価の重点			評価方法
学期	月	時数	単 元 ・ 主 な 学 習 内 容				①	②	③	
前 期	4	1	オリエンテーション				○	○	◎	①知識・技能 主に発表資料の創意工夫、期末考査と観光マイスター検定の結果から評価します。 ②思考・判断・表現 主に探究活動中の様子や、発表内容から評価します。地域・文化・歴史への考察が深さや、地域の発展や課題解決への意欲はここで評価されます。 ③関心・意欲・態度 主に授業への積極性や、グループ活動での行動など、普段の様子で評価します。
		2	稚内市の概要				◎	○	◎	
	5	1	宗谷岬周辺				◎	○	◎	
		1	稚内空港周辺				◎	○	◎	
	6	1	稚内公園				◎	○	◎	
		1	ノシャップ岬・稚内西海岸				◎	○	◎	
	7	2	稚内港				◎	○	◎	
		1	稚内のイベント・アクセス				◎	○	◎	
	8	2	味覚				◎	○	◎	
		2	外部講師による講演会					○	◎	
9	2	自然				◎	○	◎		
	1	前期期末考査				◎	◎			
後 期	10	1	産業・文化				◎	○	◎	
		1	稚内観光マイスター検定について事前学習				○	○	◎	
	11	2	郷土研究（テーマ設定）				○	○	◎	
		4	郷土研究（資料収集・聞き取り調査等）				○	○	◎	
	1	4	郷土研究（発表資料作成）				◎	◎	◎	
		4	郷土研究発表会				◎	◎	◎	
	3	2	まとめ・振り返り				◎	◎	◎	
合計	35									
学 習 方 法 ・ そ の 他										
稚内観光マイスター推進委員会が発行する「稚内観光マイスター 初級テキスト」を用いて授業を進めていきます。また、授業に関する別紙資料も数多く配布されますので、それらを利用して学習することが基本となります。10月には「稚内観光マイスター検定初級」を全員受験しますので、その合格を学習の目標とするのも良いでしょう。 しかし、この授業は単純に学習内容を理解、暗記すれば良いというものではありません。稚内に生まれ育った私たち一人ひとりが稚内への理解と愛情を深め、将来にわたって郷土に自信と誇りを持ち続ける礎を築くことが何よりも大切なことです。そのため、より積極的に授業に臨むことが求められますし、そうしなければこの授業の意義が大きく損なわれることになります。 また、年度末には「郷土研究発表会」が予定されています。この発表会は、各グループごとにテーマを決め、それに沿って独自に調査研究を行いその成果を発表するもので、本授業のメインイベントです。この発表会に向けて、年度当初から興味関心の持てる内容について特に意識して学習しておくとも良いでしょう。 この授業を通じて、稚内への理解と愛情をより深められることを期待しています。										